

## イエスのことば 第27回

「わたしの母とはだれでしょうか。わたしの兄弟たちとはだれでしょうか」と言われた。それから、イエスは弟子たちの方に手を伸ばして言われた。「見なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。だれでも天におられるわたしの父のみこころを行うなら、その人こそわたしの兄弟、姉妹、母なのです。」(マタイ 12:48~50)

## □イエスの公生涯の起承転結

起：受洗から、メシア宣言（紀元 27 年の春、過越の祭り）を経て、宣教開始まで

承：メシアとしての権威を現わす。しかし結果的に、指導者層の拒否を受ける

転：弟子訓練

結：エルサレム入城から十字架（紀元 30 年の春、過越の祭り）、復活、昇天

## □文脈の確認

1. 「承」の部において、12 の権威を見た。
2. 続いて、ローマ軍団の将校がイエスの権威を認めた。イエスは百人隊長の信仰を高く評価すると共に、将来、世界中の異邦人がアブラハム契約の祝福に与かることを予告した。この後、「承」の部の結末、メシア拒否に入った。
3. 拒否の前触れは、先駆者ヨハネから出た。獄中にあったヨハネは、イエスが本当にメシアかどうか迷って、イエスに質問を送った。しかし、イエスはヨハネを高く評価し、彼はメシアの先駆者としての使命を完全に果たしたと語った。そして、真の問題は、ヨハネとイエスを受け入れようとしない指導者層にあると教えた。
4. イエスは、多くのしるしを見せてきたガリラヤ地方の町々に対して、その不信仰を責めた。そして、拒否を目前にしていた時期における出来事が 2 つあった。
  - (1) 指導者層のひとりが、イエスを批判する口実を見つけようとして、イエスを食事に招いた。このとき、ある一人の「罪人」と呼ばれる女性が、イエスに対する信仰を行動で示した。
  - (2) 第 3 次宣教旅行。イエスは拒否を目前にしてもなお、神の国の福音を宣べ伝え続けた。このとき、多くの女性たちが自分の財産をもって一行に仕えた。
5. そして、ついに指導者層が公式に、イエスをメシアではないと拒否した。理由は「イエスは汚れた霊につかれている」であった。イエスは、その理由を 4 つの点で論破し、この拒否を「聖霊を冒瀆する罪」と呼んだ。この民族的な罪は、2 つの結果をもたらすことになった。
  - (1) この世代のイスラエルに提供されようとしていた神の国は、将来の世代に
  - (2) この邪悪な世代に対しての裁き（紀元 70 年、エルサレム陥落・神殿崩壊）

6. 指導者層による公式の拒否を受けて、イエスの宣教活動には、大きな変化が起きた。そのような変化には、二つある。一つは、しるしに関して、もう一つは、教え方に関して。
- (1) 拒否を受けてその場で、イエスは、しるしに関する新しい方針を、指導者層に示した。今後、イエスがメシアであることを示すしるしとしてイスラエル民族に与えられるのは、「ヨナのしるし」のみ、すなわち復活のしるしのみである。
- (2) イエスは、拒否を受けたその日、たとえで群衆に語り始められた。その日のうちに、イエスは5つのたとえ話を群衆に、さらに4つのたとえ話を弟子たちに、合わせて9つのたとえ話を語った。そのテーマは、「奥義としての神の国」についてであった。イエスが、たとえ話をういた目的は二つあった。
- ① **あなたがたには天の御国の奥義を知ることが許されています**・・・目的の第一、弟子たちには効果的に理解させること。イエスは、群衆にたとえで語った後に、弟子たちには意味を解説した。たとえ話に解説が加わることで、「奥義としての神の国」について、あたかもイラスト付きで理解させるような効果がもたらされた。
- ② **あの人たちには許されていません**・・・目的の第二、群衆には、たとえ話を語ったところで止めて、「奥義としての神の国」の情報を隠す。
7. 二つの変化について
- (1) しるしに関して・・・イエスは、その後も奇跡を行った。
- ① ご自身がメシアであることを示すしるしとして・・・弟子たちに対して示すしるしである。イスラエル民族に対してのしるしは、ヨナのしるししか与えられない。
- ② 癒やしなどの奇跡・・・それまでの奇跡は、ご自身がメシアであることを示すしるしとして公然と人々の面前で行われた。そのとき、癒やしを受ける人の側にイエスをメシアとして信じる信仰があるかどうかは、問われなかった。しかし、指導者層による公式の拒否以降は、イエスはもはや公然と奇蹟を行わない。人々の目のつかない場所に移動して行い、かつ、受ける人の側に信仰があることが条件となる。
- (2) 教え方に関して
- ① 人々に教えるときは、たとえ話で語るようになった。
- ② メッセージの内容も変わった。それまでは、イスラエルの各地を巡り、町々で、ご自身がメシアであると宣言し、だから神の国は近づいたと説いた。しかし、指導者層による公式の拒否以降は、イエスをメシアであると宣伝することは禁止される（たとえば、マタイ 16:20）。この沈黙の方針が撤回されるのは、マタイ 28章 18~20節の大宣教命令においてである。

□今回は、たとえ話を群衆に語っている間に起きた出来事である。イエスの母や兄弟たちが来てイエスを呼び出したときの、イエスのことばである。

マタイ 12 : 46～50	マルコ 3 : 31～35	ルカ 8 : 19～21
イエスがまだ群衆に話しておられるとき、見よ、イエスの母と兄弟たちがイエスに話をしようとして、外に立っていた。	さて、イエスの母と兄弟たちがやって来て、外に立ち、人を送ってイエスを呼んだ。大勢の人がイエスを囲んで座っていた。	さて、イエスのところに母と兄弟たちが来たが、大勢の人のためにそばに近寄れなかった。
ある人がイエスに、「ご覧ください。母上と兄弟方が、お話ししようとして外に立っておられます」と言った。	彼らは「ご覧ください。あなたの母上と兄弟姉妹方が、あなたを捜して外に来ておられます」と言った。	それでイエスに、「母上と兄弟方が、お会いしたいと外に立っておられます」という知らせがあった。
イエスはそう言っている人に答えて、「わたしの母とはだれでしょうか。私の兄弟たちとはだれでしょうか」と言われた。	すると、イエスは彼らに答えて「わたしの母、わたしの兄弟とはだれでしょうか」と言われた。	しかし、イエスはその人たちにこう答えられた。
それから、イエスは弟子たちの方に手を伸ばして言われた。「見なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。だれでも天におられる私の父のみこころを行うなら、その人こそわたしの兄弟、姉妹、母なのです。」	そして、ご自分の周りに座っている人たちを見回して言われた。「ご覧ください。わたしの母、わたしの兄弟です。だれでも神のみこころを行う人、その人がわたしの兄弟、姉妹、母なのです。」	「わたしの母、わたしの兄弟たちとは、神にことばを聞いて行く人たちのことです。」

1. 家族がイエスのところに来た経緯・・・マルコ 3 : 20～22 さて、イエスは家に戻られた。すると群衆が再び集まって来たので、イエスと弟子たちは食事をする暇もなかった。これを聞いて、イエスの身内の者たちはイエスを連れ戻しに出かけた。人々が「イエスはおかしくなった」と言っていたからである。また、エルサレムから下って来た律法学者たちも「彼はベルゼブルにつかれている」とか、「悪霊とものかしらによって、悪霊どもを追い出している」と言っていた。

- (1) イエスが第3次宣教旅行からカペナウムの家に戻った。群衆が再び集まって来た。イエスと弟子たちは食事をする暇もない。「家」とは、家族が住むナザレの家では

なく、イエスが伝道拠点としていたカペナウムの家である。

- (2) ナザレは、イエスが育った村。イエスが宣教活動を始めた頃、イエスはナザレの会堂で教えたことがある。そのとき、ナザレの人々はイエスの教えの内容に驚きながらも、結局はイエスをメシアとして認めず、イエスを殺そうとまでした（ルカ4：16～30）。それからやがて2年になろうとするこの時期、エルサレムの指導者層はイエスをメシアとして認めようとは、しない。その状況は、ナザレにまで聞こえていた。ナザレの村の中では、「イエスがおかしくなった」との噂が流れていた。
- (3) 母マリヤと弟たちは、イエスの活動が混沌としてきていると見て、イエスをナザレに連れ帰ろうとしてカペナウムに来た。来てみるとその日、状況は大きく動いていた。指導者層が公式に、イエスを拒否したのである。
- (4) イエスは、家の中で人々に教えていた。家の周りも中も群衆でいっぱい、母マリヤたちは、中に入ることができなかった。そこで、人を送ってイエス呼んだ。

## 2. イエスの応答

- (1) イエスは、伝言をしてくれた人に対して、「わたしの母とはだれでしょうか。私の兄弟たちとはだれでしょうか」と言われた。
- (2) そして、イエスは弟子たちの方に手を伸ばして言われた。「見なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。だれでも天におられる私の父のみこころを行うなら、その人こそわたしの兄弟、姉妹、母なのです。」

## 3. イエスの応答の意味

- (1) イエスは、自分の地上における血縁関係をすべて切った。そして、霊的關係のみを受け入れた。
- (2) 当時の指導者層、特にユダヤ教パリサイ派では、ユダヤ人であれば、すなわちアブラハムの血統であれば、メシアの王国に入ることができると主張していた。それに対して、イエスは、ユダヤ人であることだけでは不十分、アブラハムの霊的な子孫、すなわち信仰あるユダヤ人だけが、メシアの王国に入る、と言明した。
- (3) イエスを信じる者たちだけが、イエスの真の霊的な兄弟、母たち、姉妹である。
- (4) イエスはここで、母マリヤと弟たちの家族との血縁関係だけを切ったのではない。イエスを拒否したイスラエル民族全体とご自身の関係を切った。  
ホセア1：9 **主は言われた。「その子をロ・アンミと名づけよ。あなたがたはわたしの民ではなく、わたしはあなたがたの神ではないからだ。」**

【補足】ホセア2：23＝ロマ11：1～11、ホセア3：4～5＝ロマ11：12